

## 閉会の辞



Ts. Purevsuren

### モンゴル日本語教師会 副会長

みなさま、モンゴル日本語教師会のプレブスレンと申します。みなさん、休みの日も含めて二日間大変お疲れ様でした。

まず、みなさんのご協力を得て今回の日本教育シンポジウムも非常に効果的なシンポジウムになりました。とても成果のある集いになったことに非常にうれしく思います。そしてとりあえず遠く日本からおいでになられた松下先生と奥泉先生方にみなさまを代表いたしまして心より感謝申し上げたいと思います。先生方の幅広い内容の基調講演、貴重なアドバイスが我々にとって非常にいい勉強になりました。どうもありがとうございます。今回の日本教育シンポジウムのテーマはとっても重要なテーマでした。なぜかと言うとモンゴルだけでなく世界中の若者があまり読まなくなりました。ということが教育分野での一つ大きな問題になっていますし、それに日本語能力試験でモンゴル人の日本語学習者の一番点数が低いところは読解、読解で点数が一番点数が低いというのが日本語教師の我々にとってもこれからどうしたらいいかいろいろ試行錯誤しながらがんばっているところなんです。

今回のシンポジウムの成果を簡単にまとめるとわたしは三つのことを少し強調したいと思います。一つは私は大学の教師として日本語学習者だけでなく、ほかの専門で勉強している学生もあまり読まなくなったといつも実感されます。そこがとっても残念に思われます。なぜかと言うと読まなくなったというのはそれなりに考える力がだんだん低くなっているという一番の危ないところかといえます。

二つ目は外国語の読解だけではなく外国語学習のプロセスの中で論理を身に付けることは母語の実用能力とは切っても切れない関係にあるんだということを我々は毎日実感しています。ということで今回の読む力を育てるためにというテーマで行われるシンポジウムは母語の知識能力のことにも触れて話がだんだん幅広くなったのが非常にうれしいことだと思います。とくに私がもともと日本語、母語の国語の教師だからであるかもしれせん。

三つ目は読解能力を育成することを現代の科学のいろんな立場から見られたというのが我々に一つ大きな貴重な勉強になったと思います。

つまり読解能力を育成するというのは教授法の問題だけではなく、認知言語学、対照言語学、心理言語学とかいろんな角度からみないといけないということを我々はよくわかりました。読解は結局、言語の作業というか、言語コミュニケーションのこと、つまり文法、知識、豊かな単語のリソースとか発音が正しいかどうかということではなく脳の働きだという点から見て我々がいろいろ頑張っていくともっと成功する可能性があるんじゃないかと思っています。

最後にまとめていうと今回のシンポジウムの結果として我々の読解指導の面では今までの教授法、指導のことで見直さないといけないことがたくさんあるんじゃないかと思いました。それに日本語教師の我々がただ教える

ものだけでなく研究者にならないといけないという時代になっているのではないかと思ったのが今回の大きなポイントではないかなと思います。最後に今回の第10回日本語教育シンポジウムの主催機関、共催機関、後援機関、そして関係のそれぞれの方々に日本語教師会を代表して改めて感謝を申し上げます。そしてまた来年の日本語教育シンポジウムで再会することを期待しております。

## 2017年 第10回 日本語教育シンポジウム 集合写真



編集長： 齊藤智子

編集委員会： E.ERDENETSESEG、TS.ONON、E.NYAMDAAVAA、N.DAVAADEMBEREL、  
渡辺真由子、牧久美子、新井雄希生

お詫び： 質疑応答、コメントは音声をもとに文字起こしし、記録したため、文体が統一されておりません。  
「です、ます体」「だ、である体」が混在しておりますが、どうか、御理解の上ご容赦願います。

モンゴル・日本人材開発センター編

読む力を育てるために—読解とは何か—

「2017年 第10回 日本語教育シンポジウム」報告書

発行：モンゴル・日本人材開発センター

発行日：2017年3月31日

発行地：モンゴル国ウランバートル市